

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1535号 2000年03月27日(月)

〈 OPEC meeting 〉

今週の予定は以下の通りです。

- | | |
|----------|--|
| 3月27日(月) | 石油輸出国機構定期総会(ウィーン) |
| 3月28日(火) | 米3月消費者信頼感指数 |
| 3月29日(水) | 2月24日の日銀金融政策決定会合の議事録公開。
米2月新築住宅販売
米大リーグ公式開幕戦、メッツ対カブス、初めて東京
で(東京ドーム) |
| 3月30日(木) | 都議会本会議、外形標準課税を採決の見通し。
日本ゲーム大賞発表授与式。 |
| 3月31日(金) | 東京都区部3月の消費者物価指数
全国2月の消費者物価指数。
米2月個人所得・支出
米2月製造業受注
米2月シカゴ購買部協会指数 |
| 4月1日(土) | 介護保険制度スタート |

OPEC 総会は、増産をするのかどうか、する場合にはどの程度するのか。そして、実施時期はどうするのか、増産期限は、などが議題になります。サウジアラビアなどは増産に積極的と言われているが、加盟国の中にはリビア、イランなど増産に慎重な向きもある。

そもそも昨年未からの世界的な原油価格の上昇の背景は、99円4月に実施した OPEC の日量170万バレルの減産。その減産状態の中で、ヘッジファンドの資金などが入って原油価格が高騰した。OPEC の主要国は、原油価格を24ドル程度にしたい意向と言われる。サウジアラビア以外では、クウェート、ベネズエラなどが増産に積極的。今積極派の諸国で話し合われている増産幅は、150万バレルから170万バレル。ポイントは、これらの国が慎重派と言われるリビア、イランなどをどう説得できるかである。

日本の株式市場はまだしも、ニューヨーク株式市場の高値波乱の状況は今週も続くでしょう。先週の引値は、ダウで11100ドル台、NASDAQ は5000ドルに接近するという

展開ですが、そこに落ち着くまでの動きは週末などを見てもまだ荒かった。先週末に市場に出た観測は、「5月のFOMC(16日)では0.5%の利上げが実施されるのではないか」というもの。まだ4月にもなっていないのに5月のFOMCを理由に売りが出るあたりは、「不安心理が高く、観測と噂に支配される市場」の特徴が良く出ている。今週も波乱が続くと思えるのが自然です。

為替は、ドル・円について言うとしばらくは100円台の後半での展開になるでしょう。年度末に見られた repatriation は一巡し、円を大きく上げる力は落ちてきている一方、堅調なアメリカ経済を理由にドルを買い進めるにも限界がある。当面は、4月3日の日銀短観を展望した動きになると思われる。

〈 めんそ〜れ 〉

小淵さんも行かれたようですが、それに先だって先週は今年の7月にサミットが開かれる沖縄に行ってきましたので、その話を少し書きましょう。短い間でしたが、いろいろな方とお会いし、また沖縄本島を最北端から最南端まで走って見て回った印象は以下の通りです。

1. サミットを控え特に那覇から名護の国道58号線沿線で行われている工事(道路工事、ビル工事など)は盛んで、沖縄経済は現在かなり活気づいている。昨年一年間の沖縄での自動車販売は前年より10%も増加し、「景気」という点では本州の景況よりアヘッドしている面が強い。
2. しかし、サミット後の沖縄経済にはそれまでの沖縄経済が抱えていた問題がそのまま残される兆候が濃厚である。最も大きな問題は、「観光以外に県の経済を引っ張る産業が欠如」しているということである。
3. 「マルチメディアアイランド構想」「北部ファイナンシャル・センター構想」など計画はあるが、前者は「コールセンター誘致」という形でやっと動き出したところであり、後者はまだ動き出してもない。
4. サミット後はそういう意味ではやはり「観光」が柱になるが、いままで外国人で一番沖縄に来ていた台湾の人たちが足を伸ばしてディズニーランド、北海道に行く中でもう一度魅力を作り直して本州の人々をどう誘致するか、外国人にもいかに来てもらうかなど課題は多い

沖縄は、日本全体から見ると「人口は1%、国土は0.6%、失業率は二倍」(沖縄銀行の北原総合企画部 席調査役)と総括できるそうだ。県の統計を見ると、2000年2月1日現在の人口は131万4705人となっており、確かに日本の人口(1億3000万人弱)から見ると1%に相当する。

県内の就業者数は57万2000人で、産業別ではサービス業(18万8000人)、卸売り・小売り業(15万3000人)、建設業(7万2000人)、電力・ガス・運輸・通信

業（5万3000人）農林業（3万8000人）となっている。サービス業には当然ホテル、旅館が含まれ、そのセクターで一番雇用が大きいという結果。小さな雇用の集まりということでもある。卸売り・小売りなども商店の寄り集まり。

沖縄経済の一つの特徴は、「公共投資依存度」が極めて高いということです。これは北海道と似ている。その部分で出てくる雇用が建設業の7万2000人になっているということである。今回も国道58号線の工事だけで、大勢の人たちが雇用されているのが見えた。工事が一巡すれば、こうした雇用はなくなる。

単一事業所として沖縄最大の雇用者は県庁だそうです。4000人以上の人を雇っている。沖縄経済の中では目立つし、「それしかない」と思うのかも知れませんが、沖縄の大学生は皆「県庁への就職」を希望するらしい。実際のところ、「県の職員は威張っている」と聞いた。

次に大きな雇用者は、沖縄電力（ここも就職人気が高いらしい）の1000数百名だそうです。それに続くのは、琉球銀行だとか沖縄銀行。沖縄には都銀は一つしか来ていない。つまり問題は、「産業と言えるモノがない」ということです。ホテルや旅館、一つ一つの商店の雇用が、県の雇用の大部分を作り出している。それ自体は問題ではない。活力があって、拡大しているなら問題はない。しかし、柱になるような産業が欲しいのも確かだ。今の沖縄にはそれがないのである。

《 after the BIG MEETING 》

自動車の売り上げが昨年だけで10%も増えて、「日本という国の中では景気としては先行している」状況なのは、JALなど各航空会社を中心に観光誘致が比較的うまくいっていること、サミット関連の公共投資が動いていることが背景です。サミット人気もあるし、春休みということもあるのでしょうが、空港も混んでいたし、ホテルも込み合っていた。

しかし、問題はサミット後なのです。どのようにして県の経済状態を保っていくか。いつまでも、「公共投資依存」は無理でしょう。サミットが終われば、必然的に道路、通信施設、ホテル、会場建設などへの投資は減る。サミットの投資効果は短期的なもので110億円に達するとみられる。それがなくなるのですから、大変です。

いろいろ構想はある。「マルチメディアアイランド構想」とか、「北部でのファイナンシャル・センター構想」など。前者に関しては、「コールセンターの誘致」ということで動き出していて、沖縄銀行によれば99年8月の段階で「ベルシステム24」「NTT-DO」「CSKコールセンター沖縄」など9社が進出して、844人を雇用しているという（下に表あり）。沖縄の全体計画は2010年までに「24500人の情報関連産業雇用を」ということらしいので、まだ計画は動き始めたばかりということです。

コールセンターが沖縄に誘致できる最大の理由は、

1. 県においてここ数年、情報産業誘致に向けた施策を行っている

2. 若年労働者を確保しやすい
3. 労働賃金及び家賃などのコストが本土に比べて安い

一般的には労働賃金は本土に比べて7割、極端な場合は5割程度になっているという。しかし問題点も多いようです。最大の懸念材料は人材供給。沖縄の人々は、「コミュニケーション能力の不足」(礼儀作法、気配りなど)、「パソコンなどの基礎的な知識が不足気味」「教育指導できる人材がいない」(いずれも沖縄銀行調査)など。

現時点の沖縄でのコールセンター進出状況は以下の通りですが、進出企業のほとんどは沖縄で職員を採用していく方針。今後のコールセンターには、CS(顧客満足度)の向上・質の高いサービスの提供がより求められ、語学やコンピューターに関する知識や経験、資格など専門的スキル(特殊技能)がより一層問われることになり、沖縄におけるコールセンターの発展にとっては、いかに優秀な人材を供給できるかがカギを握っていることになる。

会社名	業務内容	採用人員	進出時期
ベルシステム24	世論調査など	100人	94年7月
NTT-DO	電話番号案内	600人	97年10月
CSK コールセンターサービス	PC ハード、ソフトに関する ユーザーサポート、ヘルプデスク	50人	98年4月
野村証券ファンド	投資信託販売業務(非勧誘)	21人	99年4月
沖縄コールセンター	損害保険の販売業務	600人程	”

あと計画としては、「情報通信産業のカスタマーサポート、アウトソーシングセンターとして、トランスコスモス社が200人程を、ベルシステム24の北谷コールセンターが今年の春に、同じく春にはNECがカスタマーセンターの設置を予定。

今の沖縄で一番の産業と言えば、「観光」でしょう。しかし私の印象では、まだまだ改善する余地が大きい。建物は立派になっているのですが、サービスと人が付いていない。これからの課題です。私が宿泊したのはサミット会場(万国津梁館)の直ぐ近くのブセナリゾートという良いホテルでしたが、確かに設備は立派だが、通信設備は満足できる水準からは遠かったし、サービスのシステムが十分ではなかった。改善の余地が大きいように思えた。

《 HAVE A NICE WEEK 》

沖縄から帰ってくると、さすがに東京は寒い。10度は温度が違う。沖縄は「ひめゆりの塔」など定番的な場所にも行きましたが、立ち竦むことが多い。本土とはやはり違った歴史を持つ島だと思いました。

移動は、最南端の喜屋武から最北端の辺戸まで2日間で約400キロを走って回ってみました。喜屋武はちょっとサイパンのバンザイ・クリフを思い出させる。あんなに景色良く、絶壁が続いてはいませんが、高さは同じ様なものです。売店も何もない。碑と展望台が有るだけです。北の辺戸は、着いて直ぐにアフリカの喜望峰を思い出しました。風が強いせいでしょうか。木や草が一定以上の長さにならない。皆地面に這い蹲っているのです。しかし私たちが行ったときには、風はそれほど強くはなかった。大きな駐車場と売店がある。

辺戸に行く途中で強く感じたのは、「沖縄の南北問題」と「東西問題」です。つまり、北の方が南より、東の方が西より開発が遅れている。だから、当然ながら北東部が一番未開発で、十分な道もないとなる。サミットがそれに拍車を掛けている。沖縄で幹線道路と言えば58号線です。沖縄本島の西側を辺戸から那覇まで走っていて、那覇から名護あたりまでは凄い改修工事が進行中で、ビルの建設も盛んです。しかし、名護を過ぎて北上すると、建設現場にはほとんどぶちあたらない。静かなものだし、車も人も少ない。

ヤンバルクイナが発見されたのは、自然が豊かな沖縄の北(山原=やんばる)です。だから沖縄の中には「北の自然は残そう」という声がある一方で、「北も開発しよう」(北部開発)という動きもある。人口は、那覇(30万人)など大部分は南の大きな都市に居る。しかも台風が直撃しない西に集まっているのです。那覇は南西部にあり、空港はその南にある。

しかし、海岸は綺麗です。サイパン、グアムほどではないが、台湾の人が結構この島に来るのは、台湾にはない「海岸」を求めて出そうです。台湾までは飛行機で1時間ちょっと。日本からよりは台湾からの方が沖縄には近い。

全国どこでもそうでしょうが、沖縄でも大きな商店街の移動が見られました。有名だった「奇跡の一マイル」と言われた那覇市中心部の「国際通り」は人通りも少なく、「寂れている」という表現がぴったりでした。ビルの空室も目立つ。特に、表通りでも二階、三階の空室率は異常に高いのだそうです。

代わって沖縄で最大の商店街となったのが、嘉手納の直ぐ下の「北谷」(チャタン)。米軍がヘリコプター基地を返還してきた58号線沿いであって、大きな駐車場と大きな商店コンプレックスがいくつも出来て、人が出ている。4月から稼働する大きな観覧車が目安で、ここに並んでいる商品はなかなか魅力的でした。

もっとも、駅前の昔は栄えた商店街がすっかり寂れて、駐車場を抱える新しい商店街が道路沿いに出来るのは全国的な傾向で、特に線路が一本もない「車社会」の沖縄では、その傾向が顕著だということです。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤（ 03-5410-7657 E-mail ycaster@gol.com ）が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》